

第6期第2回
札幌市市民活動サポートセンター
事業運営協議会

(議事内容ダイジェスト版)

日時：平成24年12月7日(金)
場所：札幌エルプラザ 2階 会議室1・2

1 議事内容（ダイジェスト）

○河野座長

今日の議事の一つ目は、平成24年度事業実施状況についてということでご報告をいただきます。

二つ目は、それを踏まえて、平成25年度事業計画に向けたご意見をいただきたいということでございます。

三つ目は、2月12日の午後6時から予定しています4月分及び12月の事務ブース使用団体の選考委員の選考について、皆さんにご審議をいただくということになります。

【平成24年度市民活動サポートセンターの事業実施状況について】

○事務局（小林）

サポートセンターは、四つの大きな業務ということで分かれています。

一つ目の柱は情報収集提供です。この業務の一つ目は「利用登録業務」で、市民活動サポートセンターに登録していただくと、お部屋のご利用や印刷機等の設備を使っただけになるのですが、11月現在で2,232団体のご登録があります。今年度の登録は104団体で、昨年度、平成23年度の実績が205団体ですので、おおむねこの先もそれぐらいの数字でいくのかなというところです。

次に「さっぽろまちづくり総合情報ポータルサイトの管理運営」、いわゆるホームページの管理運営ということで行っております。私どもの事業や、活動団体のイベントカレンダーなどの更新をしているところです。このトップページにアクセスした件数は1万4,059件です。もう一つ、トップページだけでなく、このサイトのぼの部分かにアクセスしたことが1件としてカウントできる数字では、11月末現在で15万4,322件という数字が出ております。この数字のとり方は、昨年度は行っていなかったの、単純な引き算というか、比較はできないのですが、トップページから検索しなくても、一定のサイトに行けてしまう方が、今申し上げた15万件相当の件数となっています。

三つ目に、「市民活動情報誌みんなのしみさぼ」という誌面を発行しております。一昨年度、昨年度と少し趣向を変えて、編集ボランティアの皆さんが活動団体の方々にインタビューをしてくださり、団体紹介をたくさん掲載しております。札幌市内には2,000団体を超える団体があるという登録状況ですので、団体活動を伝えることで、市民活動のすそ野を広げる、もしくは、いろいろな活動があることを知っていただくという目的で編集しております。

次に「メールマガジンの発行」です。平成24年7月から、月2回だった発行を週1回にして、これまでに28回発行しています。メルマガの登録は690人で、今年の新規登録が73人となっています。これは、平成23年度の新規の方が70人でしたので、今の段階で昨年の実績を3人ほど上回っています。何を変えて週1回にしたかという、毎回、団体の方のインタビュー記事を掲載しています。これまでは、エルプラザの事業や市民活動サポートセンターの事業などをご案内するだけのことが多かったのですが、団体のご紹介をしたいということで、このような形で行っています。

次はまちづくり人材育成事業（サテライト事業）です。市民活動サポートセンターの登録団体の方々を札幌市内の地域で活動している方々と結びつけて、そこでうまく活動していけないかということですが、平成23年度から伺っている地区センターに参りましたが、次年度の事業を決める前に伺う旨や、地区センターや地域の方々が求めている内容と市民活動団体ができることというのは、マッチングさせるにはなかなか難しい部分もあり地域の施設で講座等を行うことが難しい状況にあります。

次にサテライト事業の別の展開として、市民活動サポートセンターではない場所で、一般の方に市民活動、NPO活動を知っていただくことをしようということで、地下歩行空間にて活動団体の紹介イベントを行っています。45団体の市民活動団体から応募があつて出展していただき、11月は5回、12月は1週間展示を行いました。通りを歩く方々とお話ができ、エルプラザ内だけとか、団体だけの活動に限らず、そういった場を持って、広く目に触れていくという場は必要なのだと思っています。この事業は1月にも5日間行います。

次に「市民活動相談」です。さっぽろパブリックサポートネットワークのメンバーに週5回来ていただいて、相談を受けていただいております。件数は764件となっております。この相談を受ける中で、増える傾向にある特定の分野の相談に対応するため、それは私どもも日ごろ受けることが多い相談であるので、「相談員研修」を設けて、一緒にケース対応について話し合ったり講師を招いて私どもも一緒に研修を行っております。例えば、6月には、この4月から法律が変わって、札幌市が市内に事務所のあるNPOの所轄となり、そういった点で事業報告書の取り次ぎをサポートセンターでも行っていますが、NPOのこの書類はどうやって書いたらいいのかという相談が数多くあり、札幌市にもご協力をいただいて、アドバイスを受けながら研修を行いました。1月に就労支援関連の相談の中で、対応が難しいという事例について学んでいこうということで、今、研修会の調整しているところです。

二つ目の柱「研修・学習に関する業務」です。

その中で「ポイント支援講座」は、NPO法の改正で、それぞれの団体が活動計算書をつくるといった経理書類の作成に非常に苦しんでいたということがありましたので、NPO会計について理解を深めていただければということで講座を行いました。

次に「市民活動きっかけづくり事業」として、市民活動そのものの団体情報を発信し、参加したい方の支援ができないかということで、活動団体の紹介シートやボランティア募集の情報シートを書いていただいて、来館する方の目に触れるところに置きながら、活動につなげていきたいということで行っています。地下歩行空間でのイベントでも配布しご紹介させていただいています。

三つの柱は「交流活動に関する業務」です。

この一つ目に「サロン事業」があります。これは、市民活動団体が別の団体や市民、企業、行政などと交流や情報交換を行う場を作りたいということで実施しているもので、9月のエルプラまつりの来場者への情報提供ということで、自分たちの活動はこういう趣旨でやっていますというようなプレゼンテーションをしていただきました。

「サロン事業」のもう一つの展開として、「市民活動ミッションPR」ということで、団体の私たちがこういう使命を持ってこの事業をやっているのだということを伝えていただきたいと行うもので、10月28日に1件と、12月1日に2件あって、10月の1件は服部委員の所属するNPO法人R・Sジンジャーで、12月の1件は、ウロギネ女性の会の鈴木委員が実施しています。2月にも3件の実施を予定しています。

次に「情報センターとの連携」です。情報センターは、エルプラザ内施設に関連する書籍、資料等を提供しています。その意味で、市民活動関連の図書を選定や主催する事業での関連図書を情報センター職員から事業に集まった方々に情報提供をしています。

四つ目の柱は「団体活動支援に関する業務」です。

一つは「事務ブースの提供」です。19ブースがあり、現在17団体の入居があります。5月に事務ブースの入居団体の横の連携と職員との交流をということで、事務ブースに入居されている方々自らこういったことをやりたいとお話をいただき、私どもも参加させていただいたという会でございます。

次にこの「事業運営協議会」で、6月22日に1回目を開催して、早いもので、6カ月後の今日が2回目の協議会です。

次が「さっぽろまちづくり総合情報ポータル」、ホームページの運営委員会の第1期とあります。今年の8月30日で第1期委員会の委員さんは2年の任期を満了し、第2期の新たな委員さんが、9月17日に1回目の会議を行い、どういふホームページで情報提供するのがいいのかといった運営のあり方などについて議論をしていただいています。

次の「掲示、情報提供」はサポートセンターに入る前の通路のところに、団体さんにお持ちいただくチラシで、おおむね200から250件くらいのチラシを設置することができます。4月から現在まで943件の受け入れをしています。またレターケースは267団体のご利用があり100%の利用です。団体ロッカーも108個あるロッカーを108団体の皆さまにご利用いただいております。レターケースや団体ロッカーは年度で入れ替えがありますので、年明けには、利用希望の受け付けをして、定数を超えれば抽せんを行っていきます。

次に「活動スペースの調整と機器の配置」として、会議コーナーのご利用（利用率87%）、PCコーナーでのパソコン5台の設置、カラーコピー機、登録団体の方が自由に利用できる打ち合わせコーナー、2台の印刷機のご利用をいただいております。

数値的なことは、後半に別表でご用意していますので、また改めてご紹介いたします。

最後の「特定非営利活動促進法所轄庁事務補助業務」ということで、NPO法人の事業報告書の閲覧や認証申請の書類の縦覧に関する業務を行っています。そしてこの関連で、データをウェブ上でも皆さんが法人の報告書を見ていただけるように、札幌市から届いた事業報告書を北海道のホームページに更新しています。

最後に地下歩行空間の北大通交差点にある「情報コーナー」に、団体からお預かりしたチラシを配架しています。週3回職員が行き、なくなれば補充し、空きがあれば新しいものを入れという形で進めていて、お預かりしてきた件数は874件となっています。

○河野座長 それでは、ただいまのご説明について、皆様から何かご質問などありましたら、お願いいたします。

○松本委員 事業業務の計画書の中に、マッチング事業というのがすべての年度と書かれて載っています。これは、今年度は特になかったのでしょうか。

○事務局（小林） 現在、地下歩行空間で行っているサロン事業である企業から運営ボランティアの申し出をいただき、一緒に活動をしているというかたちがあります。このことを機会に、その企業がどういった形で市民活動に参加していきたいかという部分をうまく実現できるように、事業化を検討していきたいと思っております。今回の地下歩行空間でのイベントでは、団体が企業と連携して事業を行っている報告も団体もありまして、そういった事例を、今後、広く伝えていただくことも大事だと思っていま

す。

○工藤委員 まちづくり人材育成事業、サテライト事業のところですか。札幌市すみかわ地区センターでおやりになったようですが、それ以外には、これをほかのところでもやるということは考えてはいなかったのでしょうか。

○事務局（小林） 東白石まちづくりセンターに行って、市民活動団体との事業展開はどんな感じでしょうかというお尋ねをしに行っていますが、具体的な話が詰められてはいないです。

○工藤委員 ということは、この事業については、今後は継続できるのでしょうか。

○事務局（小林） 方法を考えていきたいと思っています。

○工藤委員 わかりました。

○河野座長 これは、以前の会議の中でも、ちょっと期待されている事業だったかなと思います。

二つ目の議題「平成25年度市民活動サポートセンターの事業計画の実施に向けて」について、事務局からご説明をいただきます。

○事務局（小林） 指定管理の4年間にこのように事業を進めていきたいと提出した資料です。その中で、平成22年度から23年、24年、25年という形でずっとつながっている事業の流れのようなものがありまして、21年度からずっと続いているものもあれば、21年度から少し形を変えたり、一つにまとめたり、枝分かれたりという形で進んでいます。今年度の事業の中で今回報告ができていないものの一つに、先ほどご質問いただいたマッチング事業のほかに、NPOインターンシップ事業があります。平成24年度に関しては、助走期間のような書き方をされていて、平成25年度にいよいよ始めますというスタイルになっております。今年度は、学生をNPO団体にインターンシップという形でかかわっていく足がかりに関する情報収集を行っている現状です。

第2期の最終年度が来年の平成25年度になります。平成25年度は、次の4年間を見据えて、札幌市の市民活動、NPO活動を、私たちは、今後、どうしていきたいかということも含めて、どうなったらいいかなということも含め、そしてそのためには、サポートセンターの事業はこういうものが必要なのではないか、こういった形の展開がいいのではないかというお話が伺えるといいなという資料のご提供でした。平成25年度の事業実施に当たっては、私どもも、この計画に基づいて進めてまいります。今後こういったことの方が大事なのではないかと、ここの部分ももっと重要になるのではないかとというようなことが、お話を伺えると大変ありがたいと思っています。

○河野座長 では、平成25年度の事業計画に関してですが、平成24年度の事業実施状況について、さきにご報告がありましたので、そのことも踏まえて事業計画について、皆様方のご意見などありましたら、お聞かせいただければと思います。

いろいろ事業が展開されていることは、平成24年度の実績を見ても十分わかるわけですが、さらにそれを充実していったり、こういう活動もあっていいのではないかというような、できれば、未来に向かってのご意見がいただければいいのではないかと思います。

○鈴木委員 先ほど、サロン事業のご紹介の中で、10月28日にRSジンジャーでされたことに関して、ジンジャーからのご報告を聞いてみたいと思うのです。私たちも、12月1日に私がさせていただいたのですけれども、それが、具体的にどういう結果に結びついていくのか。まだこれからの部分もちろんあるのですが、その辺をちょっと伺いたいと思うので、よろしかったらお願いします。

○服部委員 私どもは、現在、四つの拠点を持っています。一つは、病児保育と児童デイサービス、子どもたち向けの学習支援等々のサービスを札幌駅北口で行う予定をしております。また、中央区のファクトリー横のマンションで、「訪問介護事業所すけっとあ〜る」というものを12月1日から始めました。そして「すけっとハウス」は11月18日に平岸でオープンして、現在運営をしております。また、ミッションPRをさせていただいた「喫茶アコルデオ」は11月1日から、音楽療法カフェということで運営をさせていただいております。こちらでは、音楽を楽しみながら、おいしいお食事を食べ、本来のコンセプトである悩みごとを解決しようという私どもの団体の説明をさせていただきまして、改めて、ジンジャーがどういう活動をしているのか、そして、今後どういうふうにしていきたいかという広報をお願いいたしまして、立ち寄った方にもお話を聞いていただくなどの効果がございました。

私が言うのも何なのですが、ジンジャーは複合的な事業をしているものですから、知っていただく機会がなかなかなくて、また、ご理解をいただくにも「うーん」と言われることが多いものですから、市民活動サポートセンターのサポートでイベントをしているということで、皆さんに不信感を持っていただくこともなく、また、皆様に知っていただくいい機会になったと思っております。

ただ、一点、チラシを配っていただいて、クレームの電話をいただきました。と言いますのは、私ども障がい者の産声から天国までサポートということで、お子さんの病児保育、児童デイサービスから、障がい者もいずれは高齢者になるというサポートをしたいという思いでこの名前をつけたのですが、障がい者の産声から天国までサポートというのは、生々しいのではないかと思います。あるまちづくりセンターから、ちょっとこのチラシは生々しくて置けないという情報などもいただいております。ですから、私どもは、この表現を何らかの形で変えるべきかなと、今、ちょっと検討中です。

私どもの理念としては、障がい者の産声から天国までサポートということですが、障がい者のことを支援することによっての地域交流は、今後もしていきたいというふうに思っております。

○河野座長 鈴木委員、よろしいですか。

○鈴木委員 ウロギネ女性の会では12月1日に行いましたが、私の方に直接参加申し込みということでは1人もいなかったのです。お問い合わせは1件ありましたけれども、妥当だと判断されなかったと思われるのです。それでも、当日に参加される方もいるかもしれないということで行った結果、参加いただいた方がいたという状況です。私たちは、翌日に市民公開講座を控えていて、実際には、市民公開講座の宣伝ばかりしていて、活動の宣伝がなかなか難しかったなという反省はあります。ただ、参加された方とお話しできて非常によかったと思うのは、ウロギネ女性の会は、患者会と思われている部分がとてもあるのですが、そうではなくて、市民にとって医療は大切なインフラであり、市民にとって大切なインフラはどういうふうにあるべきなのかということ、皆さんと一緒に少しでも話せたのはよかったと思っています。

私自身は、自分の団体の市民公開講座のことだけで1カ月、2カ月前からずっと動いていたので、RSジンジャーさんのことは全く耳にも目にも入っていませんでしたので、ミッションPRをする場というのは、今、地下歩行空間で行っているような事業と関連づけるとか、人が一番集まるということでエルプラザで行っているお祭りのときなどに行う方法も一つあると思っています。それぞれ皆さん方が参加されているけれども、私自身は、皆さん方の活動内容を把握できていないと思うのです。本当に、たくさんの参加団体がエルプラザにありますので、そのうちの幾つかだけでも中身を知っていききたいと思います。多分、協働でできる場所もあるのだろうと思うのです。

そういうところを、サポートセンターの方でマッチングとしてやっていくようなことや、先ほどおっしゃられたような企業とのマッチング事業も考えていかれるといいと思っています。

○河野座長 ありがとうございます。

ここでは、たくさんの活動がなされています。似たような活動も、チラシなどを見ると感じたりしますが、ミッションそのものは一体どうなのかというのは、なかなか知れ渡らないところでもありますので、そういう機会が与えられて、ある意味で自分たちの活動について皆さんに知っていただく機会というのは、とても大事なことだというふうに、今のお話を聞きながら思いました。

今の鈴木委員のご発言は、どんな方法でやるともっと聞いてもらえる場をつくっていけるのかということですね。もし、やられた経験のある方も、そういう意味でのご提言をいただくと、中身的にはもっと有用な場になる可能性はあるのではないかと思います。

○佐々木委員 サテライト事業ですけれども、市民の方にどうやって聞いてもらえる

かという場づくりをするということでは、すごく関連しているかなと思って発言させていただきます。

私は、12月1日に、地下歩行空間でありました「チ・カ・ホでイイネ！市民活動がイイネ！」に参加をしまして、国際交流の団体が10数団体集まって、地下歩行空間でブースを出展しました。そのときに、サポートセンターの方で準備をしてくださって、私たちとしては非常に楽なのですけれども、地下歩行空間というすごく人が流動的なところで、どうやって人を集めるかということ、たまたま親しい団体の方の3団体でお話をして、スライドショーなどで映像を見せたり、ちょっと音が鳴っているといいのではないかということで、たまたまいつも連絡をとっている方々だったので、3団体でスライドを使ってということをしました。事業の企画の段階から市民活動団体が入れて、どうやって一緒につくったらいいとか、その分野によっても見せ方はすごく変わってくるのではないかといつも思っています。そういう意味では、参加する団体で、もう少し作っていく形になるといいかと思いました。

また、ブースの中に入ってきてお話を聞いていただくというのも、どこかの団体の方がお声かけをして呼んだ人という方がいいと思います。地下歩行空間で普通に歩いている方は、物は買ってくれても、お話を聞こうかという方ではなかったりするのです、そういったところで、市民活動団体をもっと発信をして人を呼んでいくということができたらいいなと思っております。今回の出展では私も、会のメーリングリストや、ホームページ上でも、こういったイベントに参加しますということは書きましたが、企画のときから参加していないので、ホームページの文章をそのまま張ってお送りするということができませんでした。もう少し自分たちの言葉で、こんなところが魅力だよということを伝えると、人が集まるかと思うのです。いろいろ大変かと思うのですけれども、企画の段階から団体を巻き込んでしていくというのも検討していただけるといいと思います。

○河野座長 そうすると、参加する人たちの広がりもできていきますね。一つの団体が頑張るというより、3団体なり、4団体なり、声をかけられて集まって、一緒に企画をするということになると、力の集め方も違ってくるのではないかと思います。

佐々木委員の3団体というのは、たまたまそこが顔見知りで、よく知っているメンバーだったからそういうふうにしたのですね。

○佐々木委員 そうです。

○小田委員 チ・カ・ホの経験者として言わせていただくとうちは実際に、去年からずっと物売りということにつながっているのですが、あそこは、非常に特殊な場所なので、要するに、通行客が5万人ぐらい大体通ります。そうすると、その中で、どれだけの人があそこに目をとめてくれるかということがありますが、特に、地下

の大通側の改札口のところは、暗いのです。

省エネということで、電気も余りつけてくれないような状況の中ですごく頑張っているなど思っているのですが、やはり、一番大切なのは積み重ねなのです。何かやっているよという積み重ねですね。私どももそうなのですけれども、毎月、月の初めの1週間だけ、あそこを使って——あの場所ではなく、もうちょっと明るいところを使ってやっているのですが、そうすると、月一でやっているということが結構知れ渡るわけです。だから、積み重ねが大事だなということは非常に感じます。

もう一つは、あの場所ですね。大通ビッセの前側のところは、どうも薄暗くて、ロケーションとしては余りよくないなどいつも感じるのですね。そして、あそこで、日吉神社のお祭りのおみこしの画像などを見せられたりするのですが、あそこで立って見ている人がまずいないのです。ですから、あの場所に、常にテーブルといすがあって、ちょっとでも休憩できるような場所があればいいのかなと思うのですが、その辺で苦勞は絶えないのではないかとということと、やっぱり、続けることですね。はっきり言って、それ以外はないということを感じました。何かやっているよということだったら、必ず寄ってくれる方はいるわけなので、そういう人たちに、例えば、今月は私たちがやっているけれども、来月はこの人たちがやるよというPRができるということで、チ・カ・ホを使った経験者としては、そういうことを非常に感じます。

○河野座長 ありがとうございます。あそこの人の流れは本当にすごいですから、その中で、ピンポイントで立ち止まって見ていただけるといような工夫ですね。またいろいろとご意見をいただきながら、そこも大事にしていきたいと思いました。

それでは、ほかにございませつか。

○平井委員 ホームページのことです。私はよく見るのですが、トップページからではなくても、アクセスした方は15万4,000件ということですが、札幌の人口からするとちょっと少ないかと思ひます。イベント情報なり、いろいろな情報があるので、皆さんもちろん考えていらっしゃると思ひますので、ホームページ自体がもっと知られるようになればなど、いろいろな団体にもつながっていくのではないかと思ひます。それに関連して、メルマガの登録者数もふえると思ひます。

登録が2,232団体ということですから、何かテーマをつけて関連した団体が集まるイベントもあるといいかと思ひます。例えば、ここにいる委員さんの団体だけでも、子育て、母子、病児保育と、こんなにたくさんつながっていく団体があるのだなど市民の方にわかっていただいたり、コミュニケーション団体だったり、ちょっとテーマを決めたイベントがあると、それはそれでおもしろいかと思ひます。

○河野座長 おもしろそうですね。私からの質問で、今まで、テーマ別で何かイベントをやったことはありますでしょうか。

○事務局（蓮井） 今まで、テーマ別というのは、行ったことはないです。

昨年度の地下歩行空間がオープンしてから、出展するときにセンターでテーマを決めて募集したというのは、去年が初めてです。

○河野座長 仲間内で、またそういう話ができるのと、一緒に企画しましょうというふうになるのかもしれませんがね。

○松本委員 マッチング事業のことです。というのは、私個人的に非常に期待をしているから意見させていただくのですが、この図を見ると、企業とか、行政も入っているかと思うのですが、以前に私がいたパートナーシップオフィスもそうでしたし、NPOサポートセンターもそうなのですが、企業との協働と言いながらも、はっきり言ってなかなか難しいところです。でも、そこをぜひ突破していただきたいというふうに期待をしています。せつかく、NPOの団体の登録が2,200件以上あって、企業がどれだけあるか把握しているところがあるかはわかりませんが、もう少し能動的に、場合によっては、札幌市青少年女性活動協会が筆頭になってコンソーシアムを組んで、事業提案を出してしまうとか。

マッチングするお見合いするような場所をつくっても、そういう場で終わってしまうと思うのですよね。一緒に事業やるというのは、ぶつかることもあるし大変なのですが、その方が、末永くずっと一緒にやっていける事業、深い協働ができると思うので、たくさん事例をつくる必要はないと思うのです。1件できれば御の字かなと思っていて、ぜひ応募できる助成金とか国の補助事業でも何でもいいのですが、このマッチング事業を単体で見ないで、ほかにもいろいろな事業があるのでサロン事業とかいろいろ組み合わせて、一つでもすごいモデルをつくる、と札幌市の市民活動すごいとなるのではないかなと思っていますし、来年度はすごく期待していますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

○河野座長 積極的に仕掛け人になってくれというご意見でした。

○工藤委員 平成24年度の事務局の報告は頑張っているのだなと思いました。実は、私、実際は2回しかここに来ていないのです。事業運営協議会というか、この委員の部分の私自身の把握がちょっと足りなかったなという反省と同時に、私は今、桑園で活動をしているのですけれども、私がやっている活動の中では、まちづくりセンターというのは、物すごく大きい助けになっているところがあるのです。ですから、サテライト事業のまちづくり人材育成という事業は、プロジェクトそのもののマッチング、紹介を含めて、まちづくりセンターを活用して、もう少し広げられる方法はないのかなと思います。

もう一つは、私たち運営協議会の委員が、私自身がもう少しかかわる機会を持たなければいけないと思うと同時に、何か方法を考えなければいけないという気がしております。

○河野座長 ありがとうございます。

最近、地下歩行空間のイベントなどを事務局からも流していただいて、できる時間は積極的に皆さんで参加しましょうということも、知っていく一つではないかと思っております。大事なことです。

私たち自身が、そういう意味での把握をきちんとしていなければいけないと思います。それから、まちづくりセンターが地域に非常に根差した存在でもあるし、子育てなどでも結構頑張っているところもあります。そういうところとも、いろいろな意味で連携しながらやれたら、もっと活気づくということも考えられますので、ぜひ、そんなことも進めていくのがいいのかなと思っております。

では、そのほかありませんでしょうか。また、いろいろお気づきの点があったら、また事務局に申し入れていただくのも一つの方法かと思えます。

本当にたくさんのご意見をいただきました。ありがとうございます。

それでは、三つ目の議事の4月分の事務ブース使用団体選考委員の推薦ということで、またご説明をいただきたいと思えます。

○事務局（小林） 事務ブースは現在19ブースあり、利用の最長3年と決められています。それは、市民活動団体の初めの一步を始めた団体の最初の場所という意味合いがあつての3年で、その後は、例えば、市民活動プラザ星園とか、民間でもNPO団体への事務スペースも増えてきております。3年先に派そういったところに出て活動していきましようという意味合いで、サポートセンターの事務ブースは初めの一步というところでは。

この事務ブースは、1平米2,500円で貸し出しておりまして、1ブース当たり4平米、月1万円です。団体によっては2ブース分までお使いいただくこともできる状況で、現在、16団体の利用があります。来年度、ブースの3年間の利用を終える団体が5団体あつて、4月と10月に入れかえを予定しています。5団体の入れかえを予定するに当たって、募集を始めていて、4月に入居できる方々と10月に入居できる方々を今年度中に決めていきたいということで選考委員会を開催します。選考委員に当たる方々は、この運営協議会の中からのお二人となつておりまして、そのお二人を決めていきたいと思つているところでございます。

○河野座長 それでは、ただいまご説明をいただきましたことに基づいて、自薦、他薦どちらでもということですが、いかがでしょうか。

○工藤委員 今までの委員は、どうなつたのですか。

○事務局（小林） 今年度、選考していただいたのは、荒井委員と河野座長のお二人でございます。

○工藤委員 その人たちでいいのではないかと思います。

○河野座長 そのほかございませんか。私は変わってもいいのではないかと思つてい

たのですが、荒井委員はどうですか。

○荒井委員 いろいろな方に体験していただくのもいいかと思います。

○事務局（小林） 選考委員は札幌市の担当課の課長とエルプラザ館長の岩寄とこの協議会の委員からお二人で、合計4人です。事務ブースの入居を希望される方々の面接で、ご質問していただいて、お話を伺って、その方々は事務ブースをうまく有効的に使っていただけるのだろうかという観点で議論をしていただいています。

○河野座長 今、私と荒井委員が続けてやってはどうかということだったのですけれども・・・。

○工藤委員 難しいのですか。

○河野座長 かなりではないのですけれども、選ぶというのはなかなか難しいですね。そういう意味での難しさです。作業そのものが難しいということではないです。どなたでも役割は果たせるというふうに思いますので、皆さんで交代してやるのもいいのではないかと思っています。

○工藤委員 わかりました。では、私が立候補をしましょう。

○河野座長 ありがとうございます。

もう一人です。立候補していただける方がいれば、すんなりといくかと思います。

○服部委員 では、私がやります。

○河野座長 ありがとうございます。

それでは、工藤委員と服部委員にブースの選考委員をお願いしたいと思います。

積極的に手を挙げていただきまして、ありがとうございます。

それでは、一応決まりましたので、きょうの三つの議題が終わりました。

全体を通して皆様方からご意見などがあれば、お伺いしたいと思います。

○松本委員 何度もすみません。せっかくの機会なので、ちょっとPRさせてください。私どもが関係するもので、ここの3階のホールで、2月16日と17日に「交通まちづくりフォーラム」というイベントをやります。そのチラシが、まだ校正中なのですけれども、大体固まってきましたので、皆さんに1枚ずつお配りしたいと思います。この事業のポイントとしては、似たようなことをやっているとか、関心のある団体を集めて、実行委員会をつくっております。いろいろな分野の中で、似たような団体が複数あるかと思っています。私どものような一つの団体が主催者になれば、すごく楽と言えば楽なのですけれども、でも、ばらばらとやるよりは、一堂に集まってやっていった方が大きいものができるのではないかと考えて、そういう形をとりました。

それから、札幌は、市民活動というか、何かやるのがなかなか難しいところだなと思っています。人口が多いということもありますが、本当は行政とか後援に入っている企業なども実行委員会に入れたかったのですけれども、主催になるか、名義後援になるか、どっちかしかないということなのです。環境プラザが協力という形で入って

いまして、そういった形ででも入っていただきたかったのですが。

例えば、ポスターとかチラシを置いていただくにしても、どこも競争率が非常に高く、交通関係なのに地下鉄の駅に貼ることすら難しく、貼る2か月前から本庁の広報課に予約をしておかなければならなくて、予約の電話は朝一からじゃんじゃん鳴って、すぐに決まってしまう感じなのです。名義後援をとるのもなかなか難しいです。実は、毎年、私どものような団体が全国に幾つかあって、持ち回りでやっているサミットの一部でもあるのですけれども、小さい町でやると、そのまちに行くと、そのイベントのポスターが町中に張ってあったり、すごく進めやすいのだろうなという気がいたします。

例えば、交通事業者にしても、前は弘前で行ったのですが、そのまちではバス事業者も電車の事業者も一社しかないのです。そして、車内とか駅にポスターが貼ってあります。でも札幌の場合は、複数の交通事業者があるので、名義後援一つをとるにしても、調整が必要になるんですよね。一見、簡単そうなこともすごく時間がかかるまちなのです。

もしご興味があってお時間があれば、部分参加でも構いませんので、お越しいただきたいと思います。交通が切り口ですが、お呼びする方のうち函館の方は、みずから町内会の足を確保するために、市役所と地元のバス事業者と協力し合って、いろいろな工夫をしながら地元の足の確保に取り組んでいます。マニアな話ではなくて、自分たちの足をどういうふうにして守っていくかというお話をさせていただく予定です。

○工藤委員 一番のねらいは何ですか。

○松本委員 公共交通を取り巻く関係者として、市民、行政、事業者と3者あるかと思うのですが、それぞれの理解がなかなか進まない部分もあるので、その垣根を取っ払って、相互理解が進めばというねらいです。

○工藤委員 足を便利にしようということですか。

○松本委員 便利にはしたいというのはあるのですが、その前に、今、地域の足というのがなかなか難しい状況に立たされています。端的に言うと、バスなどはいつでも廃止できてしまうような背景があります。一方、利用している側としては、本数を増やしてほしいとか、そういう要求になってしまう。行政は、赤字の補てんだけをしているというようなところがあって、それぞれの相手方がなかなか見えていないのです。例えば、利用者は行政が事業者にどのくらい補助しているとか、実は、事業者が努力しているのだけれども余り公表していないとか。その辺の理解をもう少し促進できたら、ただ言い合うだけではない関係が築けるのではないかというところがねらいです。

○鈴木委員 医療をインフラとして考えるのと同じように、交通も重要なインフラで、市民の足であると同時に、市民の税金をどのように使うかということもすごく関係することなので、市民生活全体が成り立っていくものの一つとして、これを考えていきたいというようにとらえたのです。

○松本 ありがとうございます。公共交通のことを言うときに、病院のことを例えに持ち出すときがあります。病院にも公営や私立など、いろいろな形態がありますね。公共交通も、公営交通があったり、営利企業形態もあります。まさしく公共交通はインフラなのです。

○河野座長 ありがとうございます。そのテーマ性についてもちょっと興味があったのですが、私は、主催者が実行委員会を組んだというところに非常に注目させていただきました。いろいろ似たような領域の中で、できる可能性があるのだなと思いました。いろいろな領域や、似たような領域の中で、一緒に何かテーマを持って活動するというので、今日の話の中で、さまざまなところと連携しながら、市民活動がもっと進んでいけばいいということで、実行委員会形式というのは一歩進んでいる形なのかなと思っていました。大変だ、というのは、そうだろうと思います。

それぞれのミッションがあったり、運営方法とかいろいろなものが違う団体が一気に結びついていくというのは、非常に難しいけれども、今の社会の中で、そういう力もあった方がいいのではないかと私は考えております。こういう実行委員会ができたというのは、はととても素敵なことだなと感じました。ありがとうございます。

○荒井委員 事務局に提案です。僕の団体は、今、星園に入っているのですけれども、市民活動プラザ星園というところで、打ち合わせをしていて、エルプラザの中に市民活動サポートセンターがあるという話をしたら、エルプラザはどこなのかというふうに、意外と知らない人が多いのです。逆に、エルプラザで打ち合わせをして、うちの事務所は星園にありますと言うと、星園はどこにあるのということで、昔の星園高校と言っても知らない人は知らないわけなのです。

例えば、「みんなのしみさぼ」とか、何らかの刷り物とか、双方の地図なり住所なりが併記されていると、お互いに便利かと思います。せっかく、市民活動プラザ星園という名称で札幌の中でやっているものですから、この市民活動サポートセンターとの連携とか、星園に行って、何か社会事業の相談をしたいとなれば、市民活動サポートセンターですよと、向こうでも刷り物として、星園で刷っているものにはエルプラザの住所なりマップなりが載ってというふうになれば、向こうとこちらの連携がよりとれるのかなという感じがいたしました。

○河野座長 ありがとうございます。

○服部委員 広く市民の方に知っていただくためにも、まず、協議会の委員という人が軸になって、まず、ここでの活動をお互いに、どこがどんな活動をしているかということをもっとお互いに知り合うということが必要だと思っています。

こういう場でこういうことをしようと思っている人同士が情報共有できないと、市民の方にしっかり伝わるかということ、ちょっと厳しいかなと思っています。委員でこ

ういうイベントがありますというチラシがあって、もし、市民活動サポートセンターに持ってきたら、「市民活動サポートセンターまで取りに来てください」というメールをいただくとか、「こういう活動があるので、この同じ委員なので応援してもらえないだろうか」というつなぎ目のようなことをもし事務局の方がやっていただけると、協議会が一体となって、市民活動をもっと広めていけるのではないかと思います。

ですから、もしよければ、また一杯飲み会のような、たびたび集まるのが無理なようであれば、市民活動サポートセンターに集まってちょっとミーティングをすることか、ざっくばらんにお話ができるような機会もあればいいかなと思います。よろしくお願ひします。

○河野座長 ぜひ、服部委員からも声をかけていただければと思います。

事務局も非常に忙しそうで、なかなか大変なこともきっとありそうです。見ていると、本当に走り回っていますからね。私たちでできることで、情報も共有できれば、回していけるのではないかと思いますので、できることはやっていけたらいいなと思います。

○工藤委員 飲み会の工藤というふうに定着してしまったようですが、飲み会だけではなくて、昼でもいいので、土曜日でも、お茶の会でもいいですから、もう少し集まる機会があればいいかなと思います。事務局とは別の仲間という部分が必要ななという気がしています。

○河野座長 許可が出るのでしょうか。大丈夫でしょうか。

とにかく、皆さんでお声かけなどをしながら、少しでもお互いにわかり合えるという作業をみずからの努力としてやっていきたいと思います。

○佐々木委員 私は、その窓口で相談員をたまにしております。今週の月曜日にあった相談員の会議で、相談内容に「ボランティアを始めたいのだけれども、募集の情報を上手に見つけられないとか、パンフレットが見つけられないということであらっしゃる人が多いよね」という話が出ていました。

打ち合わせスペースに入るところに、ボランティア募集という掲示板が置いてあったのですが、私たちも、月曜日の会議の時点では、ボランティア募集はどこかにまとまってチラシが張ってあったらいいかなと言っていました。私たちも、今、改めて、ボランティアを探したりしないので、どこにその情報があるか余り自信がないのです。18人用の会議スペースの奥にあるところの壁にいろいろなポスターが張ってあるということも知っていたのですが、初めて来た人はそこまで入らないよねという話をしていました。できるだけ表の方に、もっとフリースペースに近いところにボランティア募集というのがいっぱい貼ってあるといいかなという話をしていました。

また、最近、大学の中でもボランティアサークルがすごく多いですね。特に、北星大学はとても積極的にやっていたらいいと思うのですが、大学生が、大学の

中にいろいろなボランティアができてしまうので、外に来て、いろいろな年代の人がいるボランティアをする場に足を運ばなくてよくなったのではないかとすごく感じています。北海道大学で言えば、ボランティアセンターに行けばいろいろな情報があって、大学から出なくてよくなったけれども、サポートセンターに来ると、もっといっぱい情報があるのだよということをどんどんPRをして、学生の足をもっとこっちに戻したいと思っていますのです。

私が学生のころは、エルプラザで集まって会議をしている学生だったり、いろいろな年代の人がいるのを見ていました。もちろん、学生の団体さんはサポートセンターをすごく使っているのですけれども、学生の団体なのですね。なので、ボランティアの情報を、まず、私たちが率先して、ボランティア募集の掲示板を埋め尽くすぐらいたくさん貼って、もっと積極的にPRをしていきたいと考えていました。今日、そこを下見してから来たのですが、ちょっと情報が少なくて寂しいなと思っていました。まず私たちが貼って、ほかの団体も、この掲示板は盛り上がっているから貼ろうかなというのが出てくるかと思って見ていました。

○河野座長 ありがとうございます。いろいろな団体によっても、学生ボランティアと一緒にいろいろな活動をやっているところは、結構増えてきていると思います。

私の団体も、この間、地域で子育てサロンのようなものを中学生などとやったのです。そのときも、北海、藤、北大、北星の4大学と一緒にやって、二、三人ずつだったり、一人だったりしますが、声をかけたら、一緒にできる雰囲気は結構あるのです。ですから、大学のサークルでも、声をかけるちょっとしたルートがあれば可能です。学生たちも外に出て、一緒にボランティアをしたいというのは、学生たちの希望でもありますので、声をかけたら、応えてくれるところは結構あると思います。

○小田委員 掲示板の話で、実は、子どもゆめ基金というものがあります。私も、採択されるかどうかかわからないのですけれども、きのう締め切りだったのを、きのう、消印有効で滑り込みで出してきたのです。それがあるということは知っていて、その募集があるから出そうという気はしていたのです。

たまたま、18人のコーナーのところを見たときに「これだ！」ということで、ネットで調べたら、締め切りが近いぞということになったのですね。やはり、掲示板はすごく役に立つのです。資金とか、じっくり中身を読まなければいけないものと、ボランティアのように、ぱっと集めようという内容と、分けた方がいいのかなと感じました。

もう一つ、そのボランティアの話ですが、実は、私どものアグリション21という団体は、親子農業体験をすすめていて、北大のAgeesという農業系のサークルとすでに5年間一緒にやっています。彼らは、ボランティアでやってくれているのですが、彼らに言わせると、私たちがおばあさんの年代だと言うのですが、それでもついてくるし、そして私たちにとっては、彼らがいなければ、今の事業ができない状況に

まで来ていわけです。要するに、サークルに入った人が次から次へと伝えていく、そして、向こうは向こうで、連絡を取り合う人を決めて、この人が窓口ですということを書いてくるわけです。

日本学生農業会議というものがあつたときに、その北海道代表の人とたまたま知り合いになりました。そのときに、その人に「実はこういうことを考えている」ということを言っても、「ふんふん」と気乗りのしない返事だったのですが、後で電話がかかってきて「中身がおもしろそうなので聞かせてください」と言うことで、彼らのサークルの集まりに行つて「今までこういうふうに行ってきました」と。そして、実際にやってみると、非常に興味を持ってくれるのです。農業系と言いながら、法学部の子や工学部の子もいるという形で、どんどん広がっていくわけです。強制はしないで、都合のいい人だけ出てくださいという形にすると、緩やかな連帯みたいな感じですね。学生を交えてボランティアをやるというのは、年をとってきた人間にとっては、非常に若さをもたらえるし、新しい思考がすごく出てくるわけです。

その辺が、これから市民活動が一つ活性化していく機会なのではないかと思っています。私の経験です。

○河野座長 ありがとうございます。

○工藤委員 私も、桑園で、そぞろ歩きをしながら、ミニ大通お散歩まつりというものをやっております。これで、当日のスタッフの約120人ぐらひは、ほとんどボランティアの人たちです。これは、大通高校という市立の高校が、カリキュラムで、ボランティアをしたら単位がもらえるということのようです。その人たちや、市立大学の看護学部、デザイン学部の人たちがプロジェクトとして参加していますので、プロジェクトが終わったら、すぐにボランティアに入っていますね。それから、教育大の人たちが、チャリティーをやりながらボランティアということで、100人近くの人たちがボランティアに入っております。そして事業が終わったら「また来年ぜひ」という話が出ます。連合町内会の高齢の人たちとのコラボレーションが非常にいいというか、学生は喜んでいないかもしれませんが、連合町内会の人たちは、みんな、とてもいきいきとしています。

○河野座長 学生たちも喜んでいると思いますよ。

○工藤委員 ボランティアセンターがリンケージプラザにありまして、ポスターを貼ることでかなりの人たちが登録してくれます。今は、ボランティアに対しても積極的にする人たちがふえていると思いますので、楽しいとか、満足度があるものさえあれば、かなりできるのではないかと思います。

○河野座長 ありがとうございます。

○事務局（蓮井） 実は、ちょっと補足したいことがあります。

今年度、私どもで始めた取り組みに、先ほど出ていたボランティアのこと、助成金のこと、団体の情報のことを今年からやり始めております。市民活動サポートセンターを皆様に認知していただくのは、まず、場所が便利だ、会議室が無料で使える、印刷機も打ち合わせコーナーも使えるから、それでいいではないかということが、私たちはすごく悔しかったのです。市民活動サポートセンターに行ってもよかった、ハードではない部分でよかった、と書いていただくのに、ボランティアの情報を集めて、ボランティアをしたいと思っている人たちにどう届けていくか、そして、市民活動サポートセンターならではの助成金情報の提供ですね。今年から助成金の新着情報をピックアップして掲示しています。小田委員のように、すぐ応募していただいた事例は、情報を掲示している側にとっては、すごく心強いです。随時、新しい情報を更新して、市民活動団体のお力になればなと思っています。

団体情報については、今まで、私たちは、皆さんが登録するときの登録するための情報しかいただいていなかったのです。ですから、どういうきっかけで団体が立ち上がって、どういうミッションがあって、どういう社会をつくっていきたいのかということには知らないのです。知らないということは、私たち働いている者としてはとても恥ずかしいことだと思っていたのです。マッチング事業をやっていくにしても、団体同士で交流をするにしても、団体のことを知らないともマッチングもできないですし、ましてや、団体情報を市民にお伝えできないということに気がつきまして、今年度、新たな取り組みとして、まだ22団体ではありますが、団体の皆さんに情報シートに記入していただいて公開しています。少しでも皆さんの情報公開のお手伝いをさせていただければありがたいと思っていますので、これを、できれば2,200団体に広めて、皆さんの情報公開のお手伝いをさせてください。

そして、「札幌市ではこんなにすばらしい団体が活動していて、だから応援してください、力になってください、どうぞ頼りにしてください。そして、まちを豊かにしていきましょう」という思いで行っています。これは、来年度も引き続き、行っていくと思っていますので、まずは、運営委員の皆さんの基礎データをいただければと思っています。よろしくお願ひします。

○河野座長 ありがとうございます。

補足をいただきました。皆さんよろしければ、きょうの議題はすべて終了させていただくことにしたいと思います。よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○河野座長 それでは、長時間にわたって、本当にたくさんのご意見をいただき、私も気づきがたくさんありました。ありがとうございました。

では、事務局に返します。

○事務局 (小林) 河野座長並びに委員の皆様、ありがとうございます。

最後の最後になりますが、館長の岩寄から、もう一言、お話しさせていただきたいと思えます。

○岩寄札幌エルプラザ公共4施設館長 本日は、熱心な議論をありがとうございました。数多くの宿題をいただいたような気がしております。

私どもは、指定管理を始めてから、来年で2期目が終わるところでございますが、サポートセンターに求められる性格が少しずつ変わってきたように思えますし、市民活動自体も少しずつ変化をしていると感じております。荒井委員がおっしゃっていただいたように、札幌市では市民活動の拠点がここだけだったものが、市民活動プラザ星園もありますし、ちょっと性格は違いますが、あけぼのアート&コミュニティセンターでもやっております。今後はそういったところのネットワークの必要性もございますし、地下歩行空間ができて、去年試しに事業をやらせていただいて、今年は、たくさんの団体にご協力をいただきました。今度は、数はともかく、中身やどう運営していくか、ということについて物すごく課題がございます。事務ブースなどのハードには限界がありますので、どういう方向性で進めていくのか。今、漠然とネットワーク化ということで私どもが引っ張るのではなくて、皆さんの後をついていきながら、ネットワーク化をしていければいいかと思っております。

今回は、今までご説明していなかった4年間の計画の概要や、今年度の中身など、かなり未整理な形で会議をさせていただいて申しわけなかったのですが、本当にいろいろなご意見をいただきまして、その一つひとつが物すごく意味のあることだと思えます。この次の来年6月の会議では、もう少し整理した形で、私どもは、再来年以降に向けてこういうことを考えているということでご相談させていただきたいと思えます。よろしく願いをいたします。本日は、どうもありがとうございました。

4. 閉 会

○事務局（小林） 以上で、札幌市市民活動サポートセンター第6期第2回事業運営協議会を終了いたします。第3回の開催は、来年の6月21日を予定しております。本日は、本当にありがとうございました。

以 上